

問 白馬高校の学生寮の整備予定は

答 今後3学年利用を念頭に増改築を検討



津滝俊幸議員

【白馬高校への支援について】

問 白馬高校学校運営協議会が設置されたが、その役割は。

村長 県が設置するもので、委員は10名。地域住民、保護者、学識経験者、関係行政機関、学校長で構成。学校の運営に関する意見や具体的方針の承認、教職員の採用等の任命権者に意見を述べる事が出来るなど、法によって具体的な権限が与えられています。

問 白馬村・小谷村の今後の関わり方は。

村長 白馬高校の経営・運営に關する地域案を県教委へ提出し、国際観光学科が設置さ

れ存続が決定しました。このことにより「白馬高校の将来を考える会」は解散になり、今後は白馬・小谷両村による新しい組織を、新年度へ向けて立ち上げ、支援策を検討していきたいと考えています。

問 公営塾、学生寮、全国募集の現状と方針は。

村長 公営塾は5月時点で47人が利用しており、講師は3名体制で人員が大幅に増えたため、時間割制で運営している。学生寮は15名の入寮者があり、舎監1名、ハウスマスター2名が、生徒の日常生活管理や学習管理を行っている。本年度の全国募集は7月末日に体験入学、9月と10月に学校説明会を開催。パンフレットを作成し、ダイレクトメールや県外説明会などの広報活動をおこなっています。

問 寮の食事については。

村長 現在、ハウスマスターと賄い係の3名体制で行っており、今後は人数が増えるこ

とが想定されることから、外部委託も含め検討します。

【観光局と振興公社について】

問 観光局の組織体制と運営方針や財源は。

村長 28年度から分担金を減額が課題になっているが、29年度へ向けて、村からの負担金について新たな枠組みを検討する。観光の企画やマーケティングは、昨今複雑に進化しており、DMO化や組織改変、人材育成などが重要と考え取り組んでいきます。

問 29年度に観光局の会員を50軒増やす計画だが、具体策は。

村長 村民が一人丸となって取り組む白馬村の観光振興体制を理解してもらい、観光課や観光局役員や職員を中心に進めていきます。

問 観光局と振興公社の業務連携は。

村長 県外での物産関連のイベントへの共同参加や、塩の道祭り、夏祭りなどが具体的な取組事例。観光案内はそれぞれの立場で担ってもらっているが、村では新たな道の駅構想を進めたいと考えており、そんな中で振興公社と観光局の連携や組織の在り方について検討が必要と考えています。



白馬高校学生寮(写真上)と
寮内の談話室(写真右)